

第2回 RESAS アプリコンテスト最終審査会&表彰式 報告書

日時：平成30年1月27日（土）13:00～16:30

場所：ベルサール六本木グランドコンファレンスセンター Room A+B

東京都港区六本木3-2-1 住友不動産六本木グランドタワー9階

目的：RESASの活用方法について学び、どのような方が参加されているのか知るため

報告者：成川正幸

地方創生推進室

スケジュール

13:00～ 開会挨拶

13:07～ 最終審査10作品のプレゼンテーション

15:07～ 休憩

15:20～ 基調講演 福野泰介氏（株jig.jp 代表取締役社長）

15:40～ 表彰式

16:15～ 閉会挨拶

応募総数319件の中、10チームが参加し7分間のプレゼンテーションを行った。

最終審査結果

最優秀賞

TAMA Data Visualization

たましん地域経済研究所【東京都立川市】

優秀賞

宮崎地方創成シミュレーションゲーム

輝け☆ミライの観光大使

京都パックマン

Team:パックメン【東京都荒川区】

価値総合研究所賞

YourBase

YourBaseProject【宮城県仙台市】

さくらインターネット賞 Re:Map

TK-Data【東京都練馬区】

JTB賞

GIFUNOOTO

ギフノオト【岐阜県不破郡垂井町】

ゼンリン賞

Take a Look

ヘルスビット株式会社/共立女子大学/慶応義塾大学

SFC 研究所【東京都港区】

ソフトバンク・テクノロジー賞 宮崎地方創成シミュレーションゲーム

	輝け☆ミライの観光大使 都城高専 情報処理部【宮崎県都城市】
日本電気 (NEC) 賞	ankaa map ankaa【広島県広島市】
日本マイクロソフト賞	孤立指数分析システム 首都 DE ぼっち【東京都墨田区】
富士通賞	宇都宮移住・定住アプリ 宇都宮市役所 with バイザー株式会社【愛知県名古屋市】
三菱総合研究所賞	TAMA Data Visualization たましん地域経済研究所【東京都立川市】

内容

開会挨拶 内閣府地方創生推進室 森 大輔 氏

1. チーム名：ankaa

作品名：Ankaa map

瀬戸内海には 3000 島がある。橋が架けられ、便利になったが若者が流出した。

全国には 8 万艇のプレジャーボードが登録されており、その内 38%は瀬戸内海にあり、第 1 位は広島県。

全国のプレジャーボート平均利用日数 14 日。残りの 350 日はマリーナに浮いているだけ。

海遊び・ボード遊びをもっと身近に、もっと楽しくするアプリを作りたい。

レジャーと漁業の共存するためのルール作りをして、単なる放置艇対策の整備だけでなく新しい漁港の活用を提案。

行政 漁協 地域からボート販売会社、メンテナンス、マリーナ。

ボートシェアリング レンタル を小型船舶免許所有者 300 万人に ankaa map で。

世界有数なクルージングエリアへ持続可能な地域の未来を創造する。

今後の展開

5 つの漁協にセールスをかけて打診をしている。

ボートのシェアリング どうやってやるのか法律的にハードルが高い。

2. 作品名：宇都宮移住・定住アプリ

チーム名：宇都宮市役所 with バイザー株式会社

宇都宮市は、住みやすさランキング第一。

しかし、2016 年 東京圏に対して毎年 1000 人の転出超過。それを打破するために東京圏からの転入者を増やし、認知度を高め、情報発信力の強化する。

アプリの 5 つの特徴として、

①アニメーション機能

②AI 機能

③プッシュ通知機能

表示メニューの切替機能

④RESAS 機能

⑤宇都宮移住定住アプリ

移住に関する情報を提供し、アニメーションで地域の魅力を紹介。利用者はアンケートで初回設定をおこなう。気に入ることがあればAI のミヤリーちゃんが質問するだけで情報を知ることができる。ライフスタイルについて、実際の生活がイメージできる。

さまざまな支援制度や生活にかかる補助制度がデータでわかる。RESAS で全国の地域を選択するだけで簡単に比較する事ができる。人口、産業、住まい、働くの4つについて、他自治体と比較グラフで紹介。

3. チーム名：ギフノオト

作品名：GIFUNOOTO

岐阜の音を集めた。

RISAS データを見ると若者の人口流出が分かる。大学を卒業して 46 %愛知 38 %東京に行く。

ミュージックアプリ GIFUNOOTO で、音は人の感情に直接訴えることができる

ギフノオトの3つのポイントとして、

①アプリ起動時はアプリの存在をとにかく忘れさせる。

②とにかく集中とリラックスに繋げる。

③集中出来るのはとにかく聞き慣れた当たり前の音。

睡眠前のリラックスシーンやカフェ作業、オフィスでの個人作業で利用できる。

岐阜県には何も無い と言われたいようにしたい。

現在、どれだけ帰省しているかの統計は取られていない住んでいる場所と出身地を登録することで、帰省情報を取得する。音を通して故郷とつながる事ができる。

4. チーム名：パッカメン

作品名：京都パッカマン

京都市内の 5 番の目がパッカマンににているのではないかというところからとアメリカで認知度が高いというところから名づけた。

京都市の個別残念度

混雑

1位 人が多い、バス混雑

2位 乗降の不便

6位 道路の渋滞

その他

4位 トイレが少数

8位 飲食場所が少ない

12位 時間不足で目当てのものが見れず

16位 案内標識が少ない

住民と観光客の目的は千差万別であるが、人の動線をコントロールできることが特徴。基本的な使い方は、「エリア内の敵から逃げながら餌を集める鬼ごっこ」混雑率が高いエリアは敵が多く低い場所はアイテムがもらえる。

5. チーム名：首都 DE ぼっち

作品名：孤立指数分析システム

政策背景

- ・首都圏の介護需要が増加傾向
 - ・介護資源の不足→適切な介護が受けられなくなる
 - ・薬の内服チェックのため患者宅へ定期訪問、交負荷→人材リースの不足
- 介護資源が不足し支援がどこに行くのか。

家族は、核家族化によって家族に介護を担う人材が不在で、家族による訪問介護は持続性が無い。

コンセプトとして、地域住民による「ちょっとした支援の効率化」「ちょっとした支援の可視化」

3つの要素

①LINEで見守り chatbot（高齢者の自宅の前を通ると LINE Beacom が反応）

②訪問者カウンター

（高齢者の自宅玄関に IOT センサー内包したぬいぐるみを設置し訪問者の数をカウント）

③孤立状況分析システム

（地図に介護サービスの位置情報と介護者の位置情報を表示させる。訪問回数が多いほど孤立状況が低いと判定。高齢者または介護者がどれだけ孤立状態にあるかを行政や介護関係者が確認できるひきこもりの方にもニーズがあり、ゲーム感覚でご近所の行き来が出来る。）

今後の展望

スマートスピーカーを介護者宅に設置し、スピーカーと喋った回数をカウントして孤立度を見る。RESAS に情報提供

6. チーム名：たましん地域経済研究所

作品名：Tampa deta visualization

使用しているデータ

・Open Data

E-Stat API、国土数値情報、国立社会保障・人口問題研究所、東京都選挙管理委員会 など

RESAS API、モバイル空間統計、基地局データ

・Original Data

多摩地域中小企業景況調査、多摩地域の幸福度調査 など

・Analytical Data

将来人口・世帯推計、駅商圈分析、多摩地域産業連関表 など

・機能紹介

多摩地域中小企業の景況調査、多摩信用金庫 1200 社のアンケート調査の結果を可視化

首都圏の人口移動データ、5 年前住居、通勤場所など

首都圏の鉄道駅分析、過去 5 年間の乗降客数

その他の機能、多摩地域の人口

アプリは、2 月に一般公開予定

アプリのねらい

ひとつひとつの自治体が小さく、単独の自治体ではなかなか解決できない地域の課題が多い。行政の非効率も非常に大きいので人口の移動データから相互に依存しているというデータを引き出す。そして、複数の自治体が手を取り合って大きな政策を打っていくような広域連携の流れにしたい。

7. チーム名：ヘルスビット株式会社/共立女子大学/慶応義塾大学 SFC 研究所

作品名：Take a Look

人口の急激な変化

緩和策として、子育て支援、地方への移住。

適応策も必要

人口減少は地域経済にとって明るく無い。

アプリ内容は、将来推計人口と統計データで地域シュミレーションと未来検索。

将来推計人口×消費統計データ(性別・年代別)＝地域マーケットの将来予想

未来検索 高齢化率や人口規模も数字だけでは分からない。イメージできない。

将来の自分たちのまちが全国のどの自治体と同じかがわかればイメージしやすいのではないかとということで、データ表現を行った。

人口規模、高齢化率、人口増減数、一人当たりの地方税、昼夜間人口比率の 5 つから類似自治体を探す。

このアプリでは、将来のマーケットを予想、自分お待ちの未来の形に近い町を探し出すことができる。

そのようなまちへ訪れることはタイムマシーンで未来に行けるような体験になる。
その町で学んだり働くことは、未来に留学することとも言え、経験はきっと未来でも役に立つ。自治体連携でも人口減少少子高齢化の先輩を見つけるような新しい連携も考えられる。

8. チーム名：都城高専 情報処理部

作品名：宮崎地方創生シュミレーションゲーム輝け☆ミライの観光大使

宮崎県は、県内就職率 全国最下位で学生は38%しか残っていない。

コンセプト

宮崎県の良さを発見することと一人一人が宮崎の良さを伝えられる観光大使となる。
観光、産業、娯楽の分野でお店を開き、どうしたらまちが活性化するかを考えながら答えていく。そのためには、攻略したい自治体の特徴を調べ効果的に対策を考える必要がある。
RESAS から問題作成。自治体、お店の種類、ターゲットを選ぶ。

今後の展開

将来的に全国の小学生が地元愛に溢れた未来の観光大使になれるようにサポートしていきたい。

9. チーム名：YourBaseProject

作品名：YourBase

「あなたのビジネス拠点を見つけに行こう」

・RISAS から地方市町村の衰退スパイラルが見えてきた。

①先進的な仕事が少ない。②能力・技術が売れない。③仕事・賃金を求めて人材流出。

④外部委託で経済流出。⑤町にお金がない。⑥ビジネスが儲からない。

・地方市町村の経済成長スパイラル

①先進的な仕事がある。②能力・技術が売れる。③仕事・賃金を求めて人材流入。④受託で経済流入。⑤町にお金がある。⑥ビジネスが儲かる。

解決策＝新事業・新産業の創出。新しい経済の流れを創出。ビジネスが儲かる仕組み創出。

新しい人の流れを創出。雇用の幅と質向上。

データを基に起業家に合った地域を提案するシステム

起業家支援（ビジネスチャンス発掘、地域発掘をサポート）

地域支援（自治体の企業誘致を情報面でサポート）

起業家と地域を結ぶ

補助制度、地域の持つポテンシャルなど、自分にあった地域を見つけることは難しい

今後の展開

掲載情報の充実、検索項目の充実、自治体との連携、ミラサポとの連携

10. チーム名 : TK-Data

作品名 : Re:Map

どこにどういった施設があるかを見えるようにする。

10年前はどうだったのか過去の履歴が見える。

企業目線が多いが、自治体で利用をメインに考えた。

店舗場所が地図上で表示され、店舗詳細では、不動産取引価格、昼夜間人口、就職者数、進学者数の推移、年間商品販売額の RESAS API を使用した。

同業種の店舗比較ができる。

今後の展開

大型小売店だけで良いのか

コンビニ、民間のデータも投入したい。

エリアマーケティングが自治体向けがない。

地域の衰退は大型店だけが悪者なのかも検証。

基調講演

福野 泰介氏 (株式会社 jig.jp 代表取締役社長)

オープンデータでオープンイノベーション

全都道府県 オープンデータ普及率 100% 300 都市

「一日一創」有言実行で毎日アプリを作った。

イノベーションとは？社会を変えていかなければいけない。技術革新ではなく、社会変革であり、新技術ではなく、価値創造である。新しい技術は高額。社会変革には普及しないければ意味がない。十分に安くなることが大事で任天堂ゲームウォッチも安かったから普及した。100円CPUのイチゴジャムというコンピューターを作った。そのCPUは1秒間に500万回計算する。

インターネット web が誕生して25年経った。

オープンデータと公園の遊具。自由に遊んでOK、売ってもOKは遊具以上

オープンデータはイノベーションを産むインフラである。

グーグル検索は1割しか見られない。

データは、基本、著作権に守られている。

データは、どんなものでも使えないと意味がない。

いいものは広めよう！5つ星オープンデータで 横展開

日本以外でも使えるようにすること

勝てるアイデア発想法

1.好きなことをテーマにしてほしい

知っている人 <好きな人

2. 不満・イライラと向き合う

さまざまなイノベーションのタネが待っている

図書館での座席がない →つくえなう

3. 子供と一緒に

日本の子どもはコンピューターをもたせてもらっていない。

ゲームを作りたい 100%

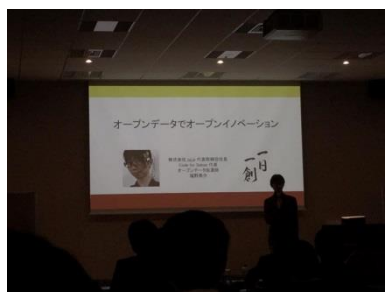
世界中から子どもホームステイ受け入れで子どもが多様性に触れられる。

人口が増える(日本語で育つので摩擦なし)少子高齢化でなくなる。

医療費が下がる(おとな・高齢者に生きがい提供)

日本文化が世界に広まる(帰るかそのまま残るか判断してもらう)

回そう創造サイクル



所感

以前、議会質問でRESASとオープンデータ活用をさせていただきましたが、そのRESASで何をするのか?どんなアプリを作ったのか?凄く興味があり、その場の雰囲気も味わいたくて参加しました。どの作品も素晴らしいと思いましたが、個人的に好きだったのが、ヘルスビット株式会社/共立女子大学/慶応義塾大学 SFC 研究所の作品名:Take a Lookです。将来の自治体の姿を探し出すというのに共感です。

黒部市でもオープンデータを推進するために、そして今までの経験や勘に頼ることなくデータを読み取り進めていくことが重要だと思っています。そのためには先ず理解者を増やすことから進めていかなければと思っています。